

進路実現のためのおまじない

ちょっと今回は趣向を変えて、進路実現のためのおまじないを紹介します。それは

「家のトイレ掃除をする」です。

何を言っているのかちょっとわからないかもしれませんが、トイレ掃除をしたら志望大学に合格する、という話に見えるかもしれませんが、以下、その狙いをお伝えします。

いろいろなことで成功している人の話を聞くと、よく出てくる話が、**成功した自分のイメージを持っている**ということです。みなさんで言えば、「**大学に合格したイメージ**」ですね。

みなさんは大学合格時のイメージを持っていますか？第一志望の大学の合格発表は何月何日ですか？例えば3月10日が合格発表だとします。多分、ネットで見て「やった～」と言っているでしょう。そういった具体的なイメージを持てますか？さて、それをさかのぼりましょう。3月9日はドキドキしてますね。さらにさかのぼります。2月25日、26日が前期日程の試験日です。少し難しい問題が出て、過去問対策や先生の添削を通して積み重ねてきた実力があれば、きっと合格点を取れる。そんな自信に満ちたイメージを持っていますか？さらに共通テストの1月17日、18日。ちょっと寒いけど、共通テストは準備をしてきたから余裕で8～9割解答できるというイメージ。さらに12月、11月、共通テストの演習をこなしていく、10月、9月二次対策において過去問を解く、8月、7月、夏の暑い時期に基礎問題を完璧にする、6月、5月・・・きちんと成功した自分のイメージをさかのぼると、今やることまで具体的になってきます。つまり、具体的なイメージをすることができれば、今やることは自ずとわかる、ということです。これは3年生の話でしたが、1・2年生のみなさんも、3年後、2年後のことを具体的にイメージすることの効果はわかつてと思います。

でも、さらにイメージしてほしいのは、「大学合格」よりも、「大学生として生活している」、「その後就職して働いている」、「研究者として研究している」といったそのあとのイメージです。大学合格はあくまでも通過点です。おそらくみなさんの大半は、大学進学を機に一人暮らしをすることになるでしょう。一人暮らしをするうえで、一番逃れられないのが、そう「トイレ掃除」です。自炊は大変かもしれませんが、最悪、コンビニや学食でなんとかなりますし、洗濯も洗濯機がしてくれます。でも、トイレ掃除だけは、自分で何とかするしかない。そんな「**大学に合格して、進学して一人暮らしをするイメージ**」が具体的にできるようになるためには、やはり**実際にトイレ掃除をすることが一番確実**ですね？

え～、と思うかもしれませんが、これは副次的な効果があります。

まず、第一に家族に感謝されます。確実に家での居心地がよくなります。「勉強しなさい」とうるさく言われなくなるかもしれません。これまでトイレ掃除をしてくれていた保護者への感謝の気持ちも生まれるでしょう。ありがとう。

また、自宅で受験勉強漬けの3年生は、トイレ掃除が結構いい気分転換になります。ずっと机に座っているより、体を動かすと血行がよくなり、学習効果が上がります。

さらに、トイレ掃除をしていると、「ふむふむ、こういうところに埃が溜まるんだな」「冬場の方が埃が多いな」「なるほど、酸性の洗剤を使うとこういう汚れに効くんだな」と、様々な知見が得られ、知的好奇心が満たされます。

そして特に男子にはトイレ掃除を積極的におすすめします。というのも、男子は本当に人間の体の仕組みについて理解していません。トイレ掃除をすることで人体の仕組みについて気付くことがいっぱいあります。そして、さりげなく自然にトイレ掃除ができたり、いろいろ理解していたり、いろいろ感謝できるような人はきっとモテます。どうかな？

とまあ、トイレ掃除には様々な効果があります。やらない理由がありません。

もちろん、毎日しなくてもいいと思うのですが、週に1回ぐらいきちんとトイレ掃除をすることが、進路実現のためのおまじないになるかもしれない、ということがわかってもらえたでしょうか？

※以上の話は、あくまでも進路課長島崎の個人的な見解です。トイレ掃除をがんばったけど第一志望に合格しませんでした、というクレームについては一切受け付けませんので、その点はご了承ください。

学部・学科・専攻について考えてみる

はぐま祭が終わった頃から、1年生は本格的に文理選択(理数科は科目選択)、2・3年生は学部・学科について本気で考える段階に入ってきます。ある程度方向性が定まっても、学科・専攻の違いがわからなかったり、決め手がなかったりすることは多いです。

もちろん、いろいろな資料があるので、それを参考にしてもらえばいいのですが、ここでも少し参考になりそうなことを挙げてみます。

理学部化学科と工学部応用化学科

同じ化学系ですが、**理学部化学科**は理論・基礎研究が主、工学部応用化学科は、実用・技術応用が主になります。わかりやすく言うと、化学科はゴムを研究し、応用化学科はタイヤを作る、という感じでしょうか。

これは就職のイメージにもつながります。**化学科は研究職、応用化学科はメーカー、開発職**がメインになります。もちろん、化学科でメーカーに就職したり、応用化学科で研究職になることも十分ありえます。**化学科だと製薬会社や化粧品の研究職、応用化学科だと建設系**なんかもありそうです。

これまた別系統ですが、**材料工学科**も興味深いですね。こちらは**金属やセラミック**を素材として、材料だけでなく、構造まで考える学科です。

いずれにせよ、**理論・基礎研究の理学部、実用化して利用を考えるのが工学部**と考えるのがよいでしょう。

経済学科・経営学科・商学科 として経営工学

毎年どこかでコメントするのが、この3つです。**経済学**は、社会全体の「お金」と「仕組み」の流れを「分析」する、**経営学**は、個々の「企業」や「組織」を「効率的に運営・成長」させる。**商学**は「企業」と「顧客」を結びつける「ビジネス」を対象とする、とみるとよいでしょう。

就職のイメージで言うと、**経済学科は公務員・金融機関、経営学科・商学科は民間企業**になると思いますが、あくまでも傾向ですので、そこまで就職が限定されるわけではないです。

ただ、学ぶ内容は微妙に違うので、そこは気にした方がいいですね。**経済学科**の対象は**社会全体**なので、例えば景気であるとか、物価であるといった要素や、日本や静岡県という大きなものが対象になります。人口などもあるでしょう。それに対して、**経営学科**は**企業の組織や収益、商品開発や生産管理**といったものが対象になります。**商学科**は経営と似ていますが、どちらかというと**マーケティングや流通・広告**という取引に焦点をあてていると言えます。

一般論ではありますが、国立大学はもともと公務員養成という背景を持っているので、経済学のウエイトが高く、経済学部の中に経営学科があるような大学が多いです。一方、公立大学は地元活性化・地元企業のサポート的な意図をもってつくられたところがあるので、経営学にウエイトをもつところが多いです。**静岡大学は人文社会学科に経済学科があり、静岡県立大学は経営情報学部があるのはそういうことだと言えます。**私立大学はその設立背景によるところが大きいですね。また、**商学部**については、数は少ないですが、明治期からの歴史の流れをもつ古い大学が散見されます。

他方、**理系**からみると**経営工学**というあまり聞かない学問があります。これは、企業の経営を数理的な観点から効率よくすすめていくという学問です。わかりやすく言えば、例えば Amazon の商品を即日で届けるためには、千葉の物流拠点と大阪の物流拠点のどちらから、どのトラックを使って、どの中継地点で積み替えをすればいいのか、という問題を解き続けなければなりません。これがうまくいかなければ、結局、企業としての収益を失うことになってしまいます。他にも、人材をどこに派遣するか、賃金をどうするか、など、実は企業経営には数理的なアプローチが必要ですね。そのようなことを学ぶのが経営工学です。文系からも学ぶことはできますが、やはり理系からのアプローチが有効です。理系・理数科を選んだけど、社会科学に興味がある人は、こういう学問があることも視野に入れてみるとよいでしょう。就職もばっちりです。